

令和6年9月27日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

1 開 会 時 間 9 時 3 0 分

2 閉 会 時 間 1 0 時 5 3 分

3 教 育 長 名 和 田 智 司

4 署 名 委 員 古 正 栄 司

5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏 名
○	教育長	和 田 智 司
○	教育委員 教育長職務代理者	藤 原 直 彦
×	教育委員	杉 本 か お り
○	教育委員	古 正 栄 司
○	教育委員	岡 野 敏 彦

6 出席者氏名	教育部長	椎 野 文 彦
	教育総務課長	田 嶋 卓 司
	教育指導課長	倉 重 成 歩
	生涯学習課長	山 下 昌 志
	教育指導課指導班長	安 藤 通 晃
	教育総務課教育総務班長	高 橋 梓
	教育総務課教育総務班主事	川 名 義 紀

7 傍 聴 者 2 名

8 調 製 者	教育総務課教育総務班主事	川 名 義 紀
---------	--------------	-----------

1 開会宣言

(教育長) 令和6年度9月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

古正委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 9月政策会議結果・議会定例会報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

(岡野委員) 安藤先生にご紹介いただいた交流会での生徒達のコメントの中で、自分の色という言葉を使っている。かなり抽象度の高い言い方だと思う。そういう言葉で、それぞれ違いを見ることができるのだと感じた。大事なことは一人一人違うことをちゃんと認識することなのかも感じた。最低限のモラルやルールに慣れていく必要はあるけど、底上げよりも、自分の良いところをもっと尖らせていくのは、大事なことでしょうし、そこに気づいたのが1つのポイントだと思う。

(指導班長) 今年度開設した通級指導教室「リエゾン」についても苦手な部分を克服するよりも、得意なものや自信を持っているものにより特化して、そこをもっと伸ばしていける運営をしていこうと担当教員と話しているので、今の意見と重なる部分もあると思う。それが通級指導教室だけではなくて、通常の学級の中でもそういったマインドで先生達が関わっていけるとより良いとこの感想を見て改めて感じた。他のことをやらない訳ではなく、得意な部分をより尖らせていくために全体の底上げが必要なシーンも多々あるので、そういった視点で気づきがあれば良いと感じた。

(藤原委員) 非常に良い感想だと思って聞いていた。大人や教員同士でやっても良いと思う。アンケートの結果については、いくつかの要素があると思った。1つ目は3校の学校が交流する場になったこと。2つ目はさっき岡野委員もおっしゃっていた自分をちゃんと知る機会になったこと。そして3つ目は他者に対して興味を持つこと。教育委員としてどんな子どもを育てたいかについて1つに絞るのは難しいが、いくつかの要素に分解していったときに、自己肯定感があると思う。継続することも大切だけど3校集まらなくても、それぞれの要素ができるのではないかな。それを1つずつ積み重ねていくと、自信が持てる子が育つのではないかなと思う。保護者に対してアンケートを実施したか。

(指導班長) 実施していない。

(藤原委員) 何で来たのか、興味があった人が来たのか偶然見つけて来たのか、何を見て来たのか、何で来ようと思ったのか、そういうところからちょっとずつ広げていくしかないと思うので、ぜひ保護者向けにもアンケートを作っていただきたい。

(古正委員) グーグルフォームなどで当日でも後日でも回答くださいますれば手軽だと思う。

(安藤先生) 受付でプリントを配布しているので、そこにQRコードをつけるなど次回以降検討していきたい。

(藤原委員) 答えにくくなってしまうので個人を特定する訳ではないことを明記して欲しい。

(古正委員) 教育長の事務報告の中にもあったが、秋沢瞳さんの道徳の授業での取り扱いについて。周りの市町では今も継続的に、あるいは広がりを持って取り組んでいるところもあるようだが、お膝元の二宮町も頑張ろうと思いながらその記事を読んでいた。無理に授業で扱うのはいかなものかと思うが、彼女が二宮町に住んでいたことについて、いろいろな機会に紹介をして、積極的に授業や教育活動の中で彼女のすることについて活かす取り組みを継続的に取り組んでもらえたらと思った。また一石議員の質問については、SSW等の常駐は私も今学校現場で仕事をさせていただく中で、本当に実感しているところだ。ただ、その効果を自分の言葉で伝えると、それはあなたの感想とかイメージと言われてしまうことがあるので、何らかの形で教育委員会として効果をきちんと検証し数値化するなどしていただいて、これが現状維持あるいは拡充できるように取り組んでいただけると良いと思う。SSW・SC2人とも、休み時間や給食の時間にも校内を巡回されて一人一人の子ども達の表情をよく読み取り、気になる児童については教育相談コーディネーターや担任、管理職にその日のうちに伝え、相談するなどしている姿を見ることがあり、その効果を実感している。最後にほっとルームが今どのくらい活用されているのか知りたい。自分が仕事をさせていただいている学校については、何となく様子がわかるが他校ではどうなのか。もしかすると先生達の中には、そこが子ども達の居場所になってしまったら困る。やっぱり子ども達がいる場所は教室。なんて想いを持っているとしたら、なかなか活用には至らない。高学年の学びの授業の中で、助産師の話を聞いていると最後の方のまとめで、「生きているだけで100点満点」だと話をされる。本当にその通りで、子どもも大人も生きているだけで100点満点。別に教室に戻らなくても、場合によっては学校に戻らなくても、生きているだけで100点満点だと先生達が達観してしまえば、ほっとルームの利用でも十分。教室に行かなくても、保健室にいても十分。校長室にいても、職員室にいてもそれでいい。教科書を別に開かなくても良いと思える。ぜひ、子ども達が安心できる居場所の一つを確保するためにスタートしたこのほっとルームがもっともっと先生たちの理解も含めて、またPRもする中で活用が進むと良いと思う。

(岡野委員) 今、古正委員がおっしゃられたSSW等の週に1回の常駐の件ですが、学校訪問行ったとき、「週1回常駐していますがどうですか」と先生方に聞いたところ、「あつ、ありがたいと思います」と一瞬躊躇った。1日ですが、そこに相談が集中し時間のやりくりが難しいと校長先生がおっしゃっていた。これで充分ではないことは会話からも感じたので、1日に限らずお願いしたい。

(教育部長) まずは、古正委員もおっしゃった通りキープした中で、検証していくことが必要だと思う。

(教育指導課長) 学校現場で聞いてもやっぱり週 1 日常駐ということで、来週また来るからすぐ相談ができるという学校の安心感に繋がっている話を伺っている。

(古正委員) 夏休み中に実施されていたラディアンでの放課後子ども教室を 2 回見に行つて、担当の方にいろんな部屋を案内していただく中で、中学生が誇らしげに小学生に教えている姿を見て、こういう機会はとっても大事だと思った。放課後子ども教室に関しては回数
の拡充の話があるけれども、それは厳しいと思っている。当事者やコーディネーター役の方
も含めて、今後どうしていくのがいいのか。いわゆる学童クラブとの一体が将来的にでき
れば一番究極の形だと思っている。しかし、公設民営の学童クラブでは難しいとも思う。教育
委員会ができることは、各校でその運営・実施をしている現場の方が集まって、情報交換を
する場の提供。この場の確保さえすれば、携わっている方々はバイタリティのある方ばかり
なので、より良いものが生まれていくような気がする。いずれにしても放課後子ども教室に
ついて今後もその内容の充実が進むことを期待している。

(生涯学習課長) 放課後子ども教室について、登録率が上がってきて参加者も増えている。
先ほど部長の報告の中でも、子ども達のニーズを把握して欲しいという要望をいただい
ていますが、毎年アンケートを実施し、ニーズを把握している。今年は総合教育会議のテーマ
で、取り上げさせていただいて、しっかりやってこうと思っている。地域学校協働活動推進
員も日頃から情報交換をしていて、今の形ができ上がってきている。ただ、事務局としては、
これを持続可能なものにしていくために、サポーター達をどう確保していくのか考えなけ
ればならない。また、他市町では毎週何曜日は放課後子ども教室の日と決めて実施している
が、二宮町では毎回出欠連絡を行っているので親の管理型になっていると感じている。だか
ら子どもが自主的に参加できる形に変えていけると良いと思う。あとサポーターについて
は、保護者の方に地域の大人として、もっと関わって欲しい思いがあります。子どもを参加
させるだけでなく、一緒になって参加し子ども達も見守れる仕組みができないかと考
えています。

4 付議事項

(1) 議案第 14 号 二宮町学校運営協議会委員の解嘱について

(教育指導課長) 二宮町学校運営協議会委員の解嘱について資料に基づいて説明

(教育長) 委員に議案第 14 号について諮る。

委員全員賛成により、議案第 14 号は承認される。

(2) 議案第 15 号 二宮町学校運営協議会委員の委嘱について

(教育指導課長) 二宮町学校運営協議会委員の委嘱について資料に基づいて説明

(教育長) 委員に議案第 15 号について諮る。

委員全員賛成により、議案第 15 号は承認される。

5 報告・協議事項

(1) 令和 6 年度全国学力・学習状況調査の結果について (速報)

(教育指導課長代理) 令和 6 年度全国学力・学習状況調査の結果について (速報) 資料に基づいて説明。

(岡野委員) 学力調査は、子ども達の理解度を通じて先生方の授業改善の効果を図ることとだと認識している。毎年、同じ学年の結果を観察しても、毎年、子ども達も入れ替わった結果になっている。毎年違う子ども達の結果を観察するのは、主の目的が達成できるのか。

(藤原委員) 調査の目的は義務教育の提供レベルの確認をしていることだと思う。

(指導班長) 基本的に先生方の授業改善を図っていくことを主目的としている。

(岡野委員) 今の中学 3 年生は、三年前は小学校 6 年生だった。今年の中学 3 年生の結果と、3 年前の 6 年生の結果を比較するのであれば、同じ子どもたちを対象にした比較ができる。それらを比較したことはあるか。

(指導班長) 比較している。例えば、二宮西学校の校長は、かつて山西小学校の校長をされていたことがあって、小学校 6 年生が中学校 3 年生になったときにどういう影響が見られたかっていうのも、クロスして分析をしている。

(岡野委員) 日本の国内だけでなく、外国と比べてみると違う見方も出てくるのかなと思う。いずれにしても貴重なデータだと思うので、いろんな見方ができるので良いと感じた。

(教育長) 指導班長から話があったように、この結果を受けて、いかに授業を改善していくか、子どもの学びをとらえどのように教員は授業を考えいくかが主たる目的。ところがそれが報道等になると県ごとのランキングになってしまう。そうじゃなくて現場の教員は、子どもがどのように回答したのか分析しなきゃいけない。また、質問紙を分析していくことも重要になる。

(2) 教育講演会のアンケート結果について

(教育指導班長) 教育講演会のアンケート結果について資料に基づいて説明。

(藤原委員) 実践に繋がるという意見がたくさんあったのは素晴らしい。そういう方を講師にお呼びしていることも素晴らしい。こういう人が来たら、先生の役に立つという先生目線でちゃんと考えられているのがすごく良いと思いました。そうしたときに現場の先生と上司の意見が合わない問題が発生するので、同じ講演を管理職の方に聞いてもらうこと

がすごく大事だと思う。教育委員会からも現場で提案が出されたら、「止めないでやらせてあげて欲しい」と伝えてください。新しいことに挑戦する側はパワーが必要なので、失敗してもいいからやれるような環境をぜひ作っていただきたい。大人もアップデートする必要があるみたいな話はすごく良い話だと思う。子どもに学びのハンドルを預けると先生の役割が変わるということを大人なり先生なりがちゃんと腹落ちすることが必要で、それが変わりにくい大人達の宿題みたいになっている気がします。ぜひ子どもの意見をちゃんと吸い上げて、頭の固い大人に届けるということをぜひやってもらえると良いと思いました。

（指導班長）本研修は管理職も含め教職員が参加しているので共有できている。担当者会の位置付けをより明確にしていくことで管理職だけではなくて、現場の教職員の方々すべての思いを吸い上げた上で意思決定していく流れを大事にしようとしている。教育委員会としては、現場の声を踏まえた上での環境づくりを連携しながらやっていきたいと思っています。

（３）二宮町教育委員会点検及び評価実施要領の一部を改正する要領について

（教育総務班長）二宮町教育委員会点検及び評価実施要領の一部を改正する要領について資料に基づいて説明。

（４）その他

－ 次回教育委員会予定 －

（教育総務班長）次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

10時53分 閉会